

会 議 録

会 議 名 称	令和6年度 第1回加古川市スポーツ推進審議会
開 催 日 時	令和6年5月17日（金）午後7時から午後8時30分まで
開 催 場 所	加古川市役所 新館10階 大会議室
出 席 者	<委員> 中谷副会長、小坂委員、伊東委員、破魔委員、三上委員、森本委員 <市> （市民協働部）松下部長、山野次長 （スポーツ・文化課）小口課長、小山副課長、荻内担当副課長、前田係長、新谷主査 （教育指導部）井上参事 （学校教育課）満石係長
会 議 次 第	開 会 1 会長あいさつ 2 部長あいさつ 3 委員紹介 4 審議事項 （1）加古川市スポーツ推進審議会傍聴要領について （2）スポーツ団体への補助金の交付について （3）加古川市スポーツ推進計画関連事業の進捗状況について 5 報告事項 （1）部活動の地域移行に向けた市としての取組状況について 6 その他 閉 会

審議内容（発言者、発言内容、審議経過等）	
開 会	
1 副会長 あいさつ	副会長あいさつ
2 部長 あいさつ	部長あいさつ
3 委員紹介	委員紹介

4 審議事項 (事務局)	(1) 加古川市スポーツ推進審議会傍聴要領について ＜事務局説明＞
(事務局)	(2) スポーツ団体への補助金の交付について ＜事務局説明＞
(副会長)	表彰育成事業について、被表彰者は誰が選定しているのか。
(事務局)	各種目協会が選定した対象者をスポーツ協会事務局へ報告。その後、スポーツ協会の中で設けている選考委員会にて、表彰規程に該当する方を選定し、表彰する。
(副会長)	加古川市スポーツ協会への補助金交付について賛成される委員は挙手していただきたい。
(委員一同)	(全員挙手)
(副会長)	みなさまから挙手をいただいたので、承認とさせていただきます。
(事務局)	(3) 加古川市スポーツ推進計画関連事業の進捗状況について ＜事務局説明＞
(委員)	スポーツを通じた共生社会の実現のうち、「(2) スポーツ施設における障がい者等の利用促進」の主な関連事業として「総合体育館改修事業」が挙げられているが、その内容について伺いたい。
(事務局)	令和6年度末をもって市のPFI事業が終了することに伴い、施設の維持補修を行うものであり、機能改善を図るものではない。しかしながら、課題・検討事項にも記載させていただいているとおり、当該施設はバリアフリー対応となっており、コミュニティ・アリーナにおいてはシッティングバレーボールができるよう床材を変更しているなど、障がい者スポーツの実施にも適している施設である。そのため、今後は、障がいのある方にも使っていただきやすい施設となるよう、その活用策について検討を進めていきたいと考えている。
5 報告事項 (事務局)	(1) 部活動の地域移行に向けた市としての取組状況について ＜事務局説明＞

(委員)	一つの部活動に対し、顧問と副顧問の２人体制が多い。地域移行の試行プランが進むなかで、一人の先生は兼職兼業として謝金が発生し、もう一人の先生には謝金が支給されていなかったと聞いたがどうか。
(事務局)	試行プランの申し込みがその先生一人であったのではないか。今後については、地域指導者として関わられる場合は、謝金が発生することとなる。
(委員)	現場では、顧問の先生も十分に理解されていないように感じる。先生方に混乱が生じないよう、丁寧な説明をお願いしたい。
(事務局)	地域指導者として試行プランに参加することに教員の皆さんもためらっていたようにも思う。丁寧に説明を行っていききたい。
(委員)	スポーツ協会や文化連盟のアンケート結果において、問 11 で半数程度は積極的に関わりたい、協力したいとの声がある一方、協力は難しいといった声もあがっている。その理由を掘り下げていれば教えてほしい。 また、試行プランを実施するうえで、スポーツクラブとの連携は検討しているか。
(事務局)	【協力が困難な理由】※資料 2 に記載のとおり、 スポーツ協会では (１) 資格要件が課題であること (２) 先行きが不透明なこと (３) 団体競技は 1 クラブでの対応が困難なこと 文化連盟では (１) 会員の減少や高齢化 が主な理由となっていた。 アンケートやヒアリングは各団体の役員を対象としており、傘下の方々にはヒアリング等ができていないため、今年度は調査の範囲を広げ、内容を掘り下げていきたい。 【試行プランにおけるスポーツクラブとの連携】 これまで、教育委員会として現状の部活動をどのように変えていかなければならないのかという視点で検証を進めてきた。今年度は新たな試行プランを開始しており、今後の取組状況の中で、各団体との連携も見据えていきたい。

(委員)	1 点目の質問について、スポーツ協会の立場として、協力がしやすい種目としにくい種目がある。協力をしにくい種目については、今後どのようにすれば地域移行ができるのか考えていく必要があるのではないか。
(事務局)	種目により状況も運営形式も異なるため、一律に考えていくのではなく、種目に応じてプランを提案していくために実証している。 チームスポーツにおいて、継続が危ぶまれていることから、今後はその点について実証を行っていきたい。
(委員)	延命措置を行うだけでは、状況は改善していかない。今後、子どもの数が減少していくことが明白ななか、取捨選択の判断が必要となる。 我々が中学生のときは、ほぼ全員が部活動に所属していたが、現在はそうではない。部活動の加入率も判断材料としつつ、今後の方向性を検討し、示していかなければならない。 教員のアンケートの回答率が半数程度であったことも気になる。
(事務局)	現在、市内には 11 中学校と 1 義務教育学校があり、部活動数は 205 である。そのすべてを存続することは難しいため、生徒のニーズを踏まえ、今後の体制について検討を進めていきたい。
(副会長)	中学校はスポーツや文化に打ち込むことができる貴重な期間であることも踏まえて、検討を続けていただきたい。
6 その他 (事務局)	・令和 6 年度スケジュールについて <事務局説明>
(委員)	「加古川市スポーツ推進計画関連事業の進捗状況」のうち、シニアクラブ連合の取組結果について、102 クラブ 4,785 名となっているが、令和 6 年 5 月 17 日時点では、8 クラブ減少して 94 クラブ（会員数は 4,335 名）となっており、減少の要因は、各クラブが高齢化しており、役員の担い手がいなかったことや若年齢化が見込めないことである。 また、グランドゴルフやいきいき百歳体操を行っている方は、非常に元気である。グループホームの運営会議に出席したが、女性 9 名で構成されたクラブがあり、最高齢は 94 歳、平均年齢が 87.3 歳である。私の所属するクラブでは、女性役員の最高齢が 88 歳となっているが、体操をしていると非常に元気である。シニアクラブでは、今後もいきいき百歳体操の普及に努めていきたいと考えている。

(事務局) 閉 会	いきいき百歳体操については、令和５年度は 178 会場において 200 団体が、令和６年度は 179 会場において 201 団体が実施しているとなっているが、私が持っているデータと差異があるため、確認をお願いしたい。 報告内容に間違いがないか、担当課に確認する。
-------------------------	---